



2019

HYMO CSR Report

3 トップメッセージ

4 ハイモについて

会社概要
事業内容
事業所
研究開発
品質サービス
売上高・従業員数

5 ハイモのCSR活動

CSR推進室
ISO認証取得および主なCSR活動

6 お客様への責任

ハイモの技術と製品

ディスパージョンポリマー
エマルジョンポリマー
水処理用高分子凝集剤
製紙用高分子薬剤
法面緑化用高分子薬剤
泥土改質剤
粉塵低減剤
収束剤
電気泳動ゲル

9 環境への責任

マテリアルバランス
環境関連データ
2018年度の目標と実績

13 社会・地域・従業員への責任

労働災害防止への取り組み
防災・避難訓練
BCM格付
有給休暇の取得状況
育児休業制度、育児短時間勤務制度等
英会話教室開講
地震を想定した消防救急講習
ポンプ機材の安全研修
河川視察
環境保全標語入選
地域の清掃活動
優良冷凍保安責任者協会会長表彰を受賞

編集方針

本レポートの作成にあたっては、「環境省・環境報告ガイドライン」等を参考としました。

※本レポートの作成にあたって、集計方法の見直しなどを行ったため、昨年の報告書と数値が異なる場合があります。

報告対象範囲

対象期間：2018年4月～2019年3月（2019年11月発行）

※一部期間外の内容も含んでいます。

お問い合わせ先

ハイモ株式会社 CSR推進室

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番1号 TEL: 03-6212-3838 FAX: 03-6212-3848



社会に貢献する企業を目指し 革新と挑戦を続けます

私たちは、社会の豊さを求め「人と自然の調和する社会」の実現をめざし、社会に貢献する企業であり続けたいと考えております。

- ・ 社会やお客様へのかぎりない対応を通して信頼の輪を広げる
- ・ 創造性を大切にし つねに革新に挑戦しつづける
- ・ 社会の豊かさを求め 人を活かす経営に徹する

経営理念のもと、「水とニュー化学」の領域で、独創性ある技術を通して商品開発から生産・物流・技術サービスに至るまでのお客様のご要望にお応えすると共に、事業活動全体の運営に社会的責任を果たす努力を重ねております。

この一年、これまでの姿勢と変わることなく、自然環境の保全に取り組んでまいりました。

その活動を「CSR Report」にまとめましたので、ご高覧頂きますようお願い申し上げます。ハイモはこれからも、社会に必要とされる企業でありつづけ、より一層社会貢献に努めていく事をお約束いたします。

代表取締役社長 鵜田 和啓

ハイモについて

■ 会社概要

商号 ハイモ株式会社
所在地 東京都千代田区丸の内
3丁目4番1号
設立 1961年4月28日
資本金 281,968,500円

■ 事業内容

- 高分子凝集剤の製造販売
- 製紙用薬剤の製造販売
- 土木用薬剤の製造販売
- 生化学分析用ゲルの製造販売

■ 事業所

- 本社（東京）
- 支店（大阪）
- 営業所（札幌、仙台、富士、名古屋、広島、福岡）
- 工場（青森、神奈川、山口、福岡）
- 研究センター（神奈川）
- テクノセンター（神奈川）

■ 研究開発



技術戦略

「水とニュー化学」のテーマで、地球環境に優しい製法と製品を開発してきました。さらにCSR活動を推進するために、法適合と製品の安全に取り組んでいます。強力な知的財産戦略により、お客様に安心して使用していただける独創的技術を提供しています。

製品設計と機能の発掘

高度の解析技術と合成技術により、高分子の構造設計から機能の発掘へと展開し、製造法の確立に繋がります。

製品評価と使用技術の提案

先進的な機能評価技術により製品の機能を突き詰め、お客様へ最適な使用方法を提案し、新しい製品開発へ展開しています。

■ 品質サービス



生産体制

ISO9001とISO14001を取得し、最新の技術システムと環境保全体制の下で製造しています。また3工場による生産体制を構築し、大規模災害からのリスク回避を図っています。

物流体制

タンクローリー・コンテナ輸送等、お客様の受け入れ体制に合わせた輸送形態で製品を納入しています。また、輸送・納入時の無事故を最優先とした物流体制を整えています。

品質管理

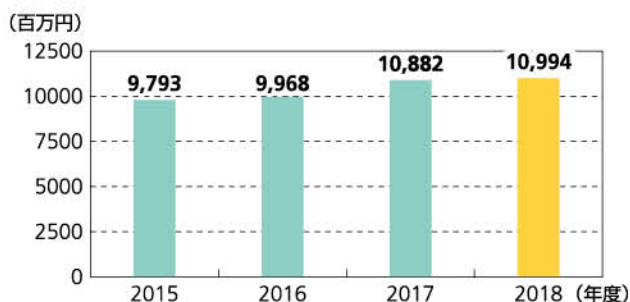
万全の品質管理を行うことで、お客様に満足していただける製品のご提供が可能になります。確かな品質を維持するために、様々な規格や基準を設けています。

情報公開

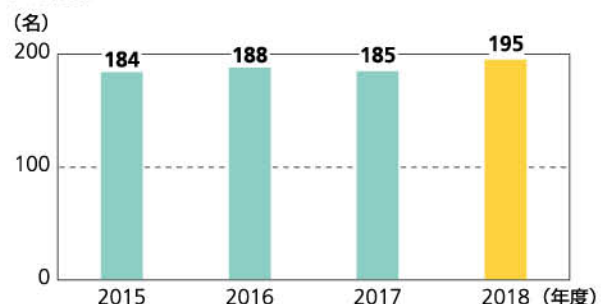
化学製品を扱う者として、社会が求める情報を積極的に開示しています。レスポンシブル・ケア(RC)の理念に基づき、社会との対話を図りながら、社業に反映させています。

■ 売上高・従業員数

■ 売上高



■ 従業員数



ハイモのCSR活動

CSR推進室を設置し、環境・安全および法令遵守に関わるさまざまな活動に取り組んでいます。



社会に必要とされる企業として

CSR推進室

当社では、2007年に全社を統括するRC^{*1}の推進部署として「RC推進室」を発足させ、環境や安全、法令遵守等に関わる社内活動に取り組んできました。

企業の社会的責任(CSR^{*2})の重要性が高まるなか、2011年からRC推進室を「CSR推進室」に改称して、社会の一員としての役割をより一層担うことができる会社を目指し、活動強

化を図りました。これによって環境や安全衛生に関わる管理だけでなく、企業活動が社会に与える影響に対しても責任を持って推進していく体制となりました。

現在、経営層で構成される「CSR委員会」や事業所毎の安全衛生委員会とも情報共有・相互連携を図り、更なる活動のレベルアップに取り組んでいます。



品質・環境の継続的改善と法規制・社会への対応強化を目指します

ISO認証取得および主なCSR活動

CSR教育について

CSR推進室では、2011年から社員のCSR意識向上を目的としてCSR研修会を開催してきました。

2015年度からはCSRに関する周知・啓発を目的とした「CSRニュース」を、数回／年のペースで社内に配信しています。1報につき1つのテーマに絞った端的で分かり易い内容とし、CSRに関する情報に触れる機会を増やすことで社員の意識の向上を図っています。

今後もレベルアップを目指し、教育を継続することで、CSR推進のための知識と意識を高められるよう努めていきます。



品質・環境への取り組み [ISO9001・ISO14001]

品質方針に基づき、常に品質改善と顧客満足の上昇に取り組んでいます。1998年に神奈川工場で品質ISOの認証を取得し、その後、青森工場、山口工場、開発部門、営業部門にも認証範囲を順次拡大しました。

環境ISOについては、2002年に神奈川工場と山口工場が認証取得し、2004年に青森工場にも取得拡大しました。環境方針を基に生産部門全体で環境管理プログラム計画書を策定し、環境負荷・環境リスクの低減を行っています。

2015年にはISO規格が全面改訂され、実効性をより強化した内容に刷新されました。当社でも、品質・環境ISOともに新規格に移行し、規格改訂のメリットを活かせる体制づくりを進めています。



国内外法令への対応

近年、化管法・化審法・安衛法・毒劇法など、化学物質の取扱いに関連した法令の改正が順次進められてきており、当社も化学品メーカーとして、社内外ともに、各改正に従った対応をとっております。

特に商品の提供においては、グローバル化を背景に、欧州におけるRoHS指令、REACH規制など製品含有化学物質管理に関する法制度への対応要求が増大し、サプライチェーンマ

ネジメントを通じた化学物質管理に関する情報伝達の重要性が高まっています。

その様ななかで、2018年6月に公布された食品衛生法の改正により、食品用器具・容器包装について、安全性を評価した物質のみを使用可能とするポジティブリスト制度が導入されることになりました。当社もお客様により安心して使用して頂くために制度導入に向けた対応に取り組んでおります。

お客様への責任

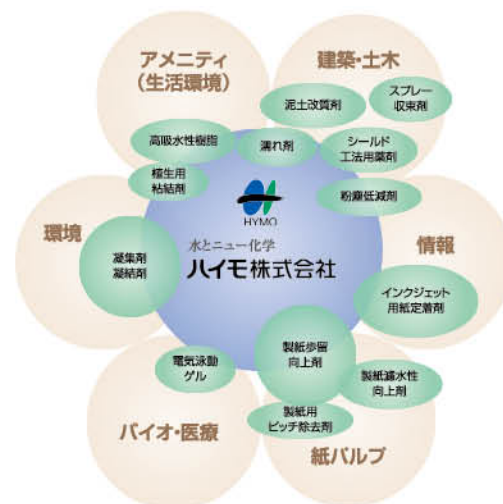
ハイモの技術と製品

水溶性高分子は環境にやさしい素材として世界的に注目を集めています。
ハイモはこれまで「環境」「エネルギー」「健康」をキーワードに
高度な高分子設計技術を用い、環境負荷の低減、生産性の向上に挑戦してきました。



多くの分野で利用される ハイモの製品群

当社はこれまで多様な原料を用い、優れた機能を有する環境にやさしい水溶性高分子を数多く開発し、現在も社会の広い分野で利用されています。産業界においては廃水処理、製紙プロセス、土木建設プロセスを中心とする凝集剤（ハイモロック）として、また医療分野においては電気泳動ゲルとして、更に、私たちに身近なところにおいてはインクジェット用紙の品質向上あるいは上下水道の汚泥脱水用凝集剤として、お客様の環境負荷低減省資源化、リサイクルの推進等に役立っています。ここでは、環境に配慮した当社製品群をいくつかご紹介します。



環境に優しい高濃度水溶性ポリマー

ディスパーションポリマー

世界各国で使用されている特殊製法によるディスパーションポリマーは、当社で開発、製法が確立されました。このノンオイル型の環境にやさしいポリマーは今後も数多くの新しい分野でその利用が期待されています。



水に素早く分散し、溶解する。



高機能型水溶性ポリマー

エマルジョンポリマー

高分子凝集剤の形態の主流である粉末製品に対し、特殊製法を取り入れ構造をコントロールした高機能型エマルジョンポリマーにより、使用量の低減、効果の向上を可能にし、環境負荷低減に貢献しています。



多くの分野で活躍 水溶性高分子の機能を活かす

これまで当社の開発した水溶性高分子は産業廃水処理における高分子凝集剤として発展してきました。当社は水溶性高分子が水中に懸濁する物質を集める凝集機能以外にも多くの機能を持つことに注目し、近年様々な分野への展開を積極的に進め、省資源化、生産効率の向上、安全性の向上に寄与する製品を提供しています。

■ 水溶性高分子とその応用

機能	用途
集める・沈める・浮かす	凝結剤・凝集剤
質を変える・接着させる	泥土改質剤・土壌改質剤
固める	固化剤
増粘させる・分散（減粘させる）	増粘剤・流動化剤・分散剤
定着させる	インクジェット定着剤
水にぬれ易くする	濡れ剤・親水化剤
収束させる・吹き付ける	収束剤・粉塵低減剤
吸水させる	吸水剤
展開させる・分離させる	電気泳動ゲル・イオン交換樹脂

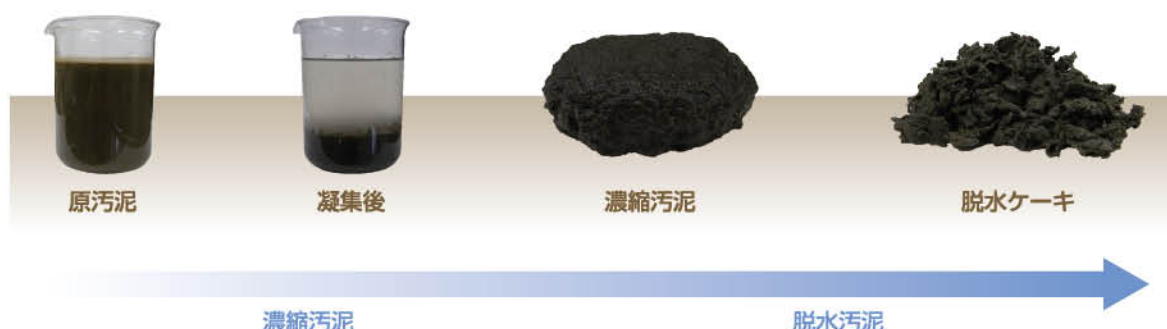


きれいな水をつくり廃棄物を削減する

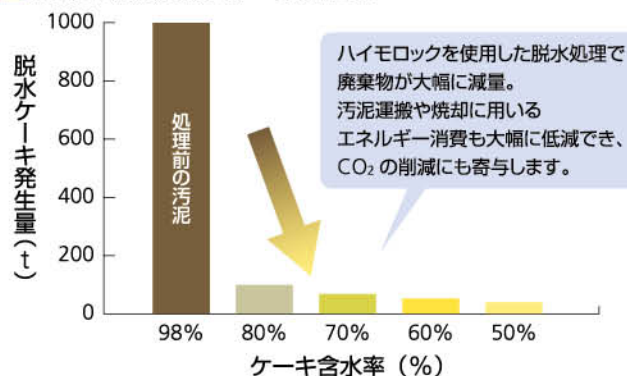
水処理用高分子凝集剤

廃水処理用の高分子凝集剤(ハイモロック)は一般産業廃水、上下水道処理の処理薬剤として長い間使用されてきました。使用した水を効率よく再利用することは省資源、省エネルギーの観点から重要なテーマであり、最終処分廃棄物の減少はエネルギー消費、CO₂削減に大きく寄与します。ハイモはあらゆる廃水に迅速に、的確に対応するため、全国各地の廃水、汚泥を採取、最適な薬剤と使用方法を提案しています。

■ 下水処理場で発生する汚泥の凝集脱水処理工程



■ 脱水処理後の廃棄物（ケーキ）発生量



高品質の紙づくりとリサイクルに貢献

製紙用高分子薬剤

紙は人類の歴史と共に進化しており、現代社会にはなくてはならない存在です。製紙産業は、「森林」「紙」「エネルギー」を上手く循環させて、資源を有効に活用している産業です。日本国内の製紙会社における古紙の利用率は、2017年には64.1%に達しており、高水準で推移しています。現在、新聞用紙原料では75%程度、段ボール原料では殆どが古紙です。その古紙に混在する異物やインク等を取り除き、繊維だけを取り出し、古紙パルプとして再生する高度な技術が求められています。更に、製紙会社では、用水原単位の削減、環境規制への確実

な対応の推進、省資源、省エネルギーへの取り組みが求められ、地球環境保護の為に課題は多岐にわたっています。

当社では、このような課題の中から、具体的に古紙原料使用による短繊維パルプのワイヤー上での歩留率向上及び乾燥性向上を目的に歩留向上剤や濾水性向上剤を提供し、省資源や省エネルギーに寄与しています。また、古紙原料から持ち込まれる糊やテープの粘着成分、ピッチ成分を抑制する水溶性高分子薬剤を開発し、安定した抄造環境と高品質の紙質維持に貢献しています。



地域植生の回復

法面緑化用高分子薬剤

ダムや道路工事、開墾建設工事によって、法面^{*1}の地面や岩は風化され、降雨によって多くの土砂が流出、周辺の環境は大きく破壊されます。このような環境下では早く植物が地表を覆い、根を張り地盤を固める必要があります。しかし、ここに植物の種を蒔くだけでは十分とはいえず、種は素早くしっかりと斜面に固定される必要があります。当社では工事で発生した廃棄物の木材や植物の根をチップ化

し、現地の土を再利用したうえで、水溶性高分子を添加し、団粒化^{*2}させます。法面に吹付けた後は土の湿度・水分を保ち、斜面に強く長期にわたって接着効果を維持することによって、植物種子に良好な緑化基盤環境を作ることが可能となります。このように現地の土に含まれる種子を利用することで、他の地域の植物持ち込みを防ぎながら廃棄物の有効利用が可能となり、地域植生回復に役立っています。

用語集

^{*1}法面：切土や盛土によりつくられる人工斜面のこと

^{*2}団粒化：土壌の粒子が小さな塊を形成している構造

お客様への責任

ハイモの技術と製品



作業の効率化に貢献

泥土改質剤

土木工事や災害現場に発生した多量の泥土は非常に高い含水率と流動性を示し、除去作業や、その後の運搬取り扱いが困難となります。更に処分の際、泥土流失などによる周辺への環境汚染を引き起こす危険性があります。

このような流動性の高い泥土に泥土改質剤を加え、かき混ぜることで、泥土は瞬時に団粒化現象を示し、取り扱い、運搬移動が容易となり環境汚染の発生を未然に防止できます。



安全な作業環境づくりに貢献

粉塵低減剤

トンネル工事の代表的工法に NATOM 工法があります。日本においても大型トンネル掘削の標準工法として施行され、あわせてコンクリート吹付工法も進歩をとげてきました。しかし、吹付時に発生する大量の粉塵について作業者の健康、

安全作業に課題を残してきました。

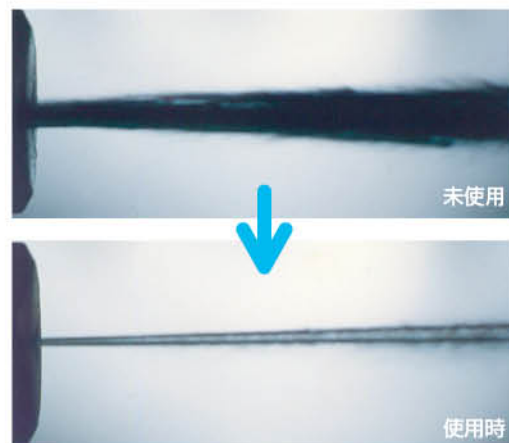
ハイモは長年培った水溶性高分子技術をもとに高性能の吹付コンクリート用の粉塵低減剤を開発、快適な作業環境の確保と経済的な工事の推進に活用されています。



アスベストの除去作業にも活躍

収束剤

水溶性高分子を希釈した水溶液は僅かながら粘性を示します。この性質を利用し、この粘性溶液を高圧条件下で細いノズルから噴出させ合成ゴム、各種樹脂などを高精度に切断、精密加工することができます。この機能は鉄筋コンクリート構造物のはつり工事にも利用されウォータージェット工法と呼ばれています。また、近年アスベスト飛散による環境汚染が社会問題となっておりますが、このアスベストを安全に、早く、確実に除去する方法としてイーコン工法が開発され、この除去作業に当社の水溶性高分子が利用されています。



医療や生化学分野で活用される

電気泳動ゲル

生化学の発展のなかで、正確なタンパク質、核酸(DNA)の分離、解析は重要な研究テーマであり、電気泳動ゲルは今後の医薬品の開発、病理の解析、或いは生物体の遺伝子情報、分類の研究等に欠かせない分析薬剤となっています。

■ 特徴

- 長期間の保存が可能のため、在庫管理が容易で、有効期限切れによる廃棄物の発生を抑制します。
- 大量生産による製造・流通コストの削減を実現しています。



電気泳動ゲルによるタンパク質の泳動像

用語集

●電気泳動：DNAやタンパク質などの生体分子を電気力でふるいにかけ、分子の大きさによって分ける解析手法。

環境への責任

環境等に関するさまざまな改善活動を継続しています。



マテリアルバランス

生産部門



全社的な傾向として、エネルギーのほとんどは生産活動に投入されています。

生産部門の各工場へのエネルギー投入比率は、ほぼ生産量比率に同調しており、生産活動に伴い発生する廃棄物も他部門と比較して多くなっています。全ての工場において環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得しており、このシステム運用によってインプット・アウトプットの削減に取り組んでいます。

一方、営業部門では販売活動に伴う自動車移動で消費されるガソリン使用の比率が高くなっており、開発部門では、試作開発／各種分析に必要な熱源利用や、精密測定機器のメンテナンス／維持のため、床面積当りの電気使用量が多い傾向があります。

また、生産・営業・開発・管理の全部門において、廃棄物の減量化とリサイクルを推進しています。

環境への責任



環境関連データ

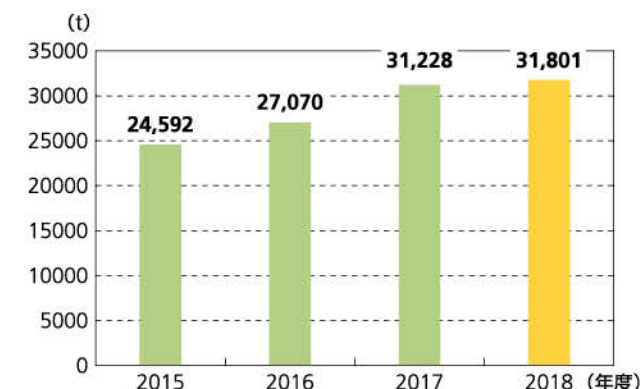
生産部門

生産量

市場からの要請を受けて、性能向上やコストダウンを図るために有効成分濃度がより高い「高濃度液状製品」へのシフトを進めています。

そのため、製品重量としての生産増加以上に、有効成分ベースでの生産量は増加している傾向となっています。

生産量

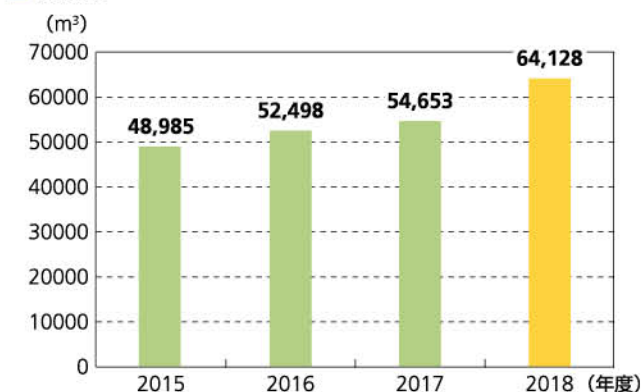


水資源投入量

高濃度液状製品では、製造設備や製品容器を洗浄するために多くの水を使用します。そのような製品の生産比率が増えていることで、水資源の投入量は増加傾向にあります。

更に、2015年度より、排水処理設備の運転条件を調整するために水資源の使用を開始したことで、水資源投入量は一層の増加傾向となっています。

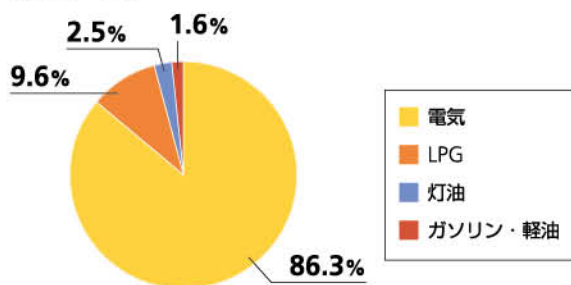
水資源



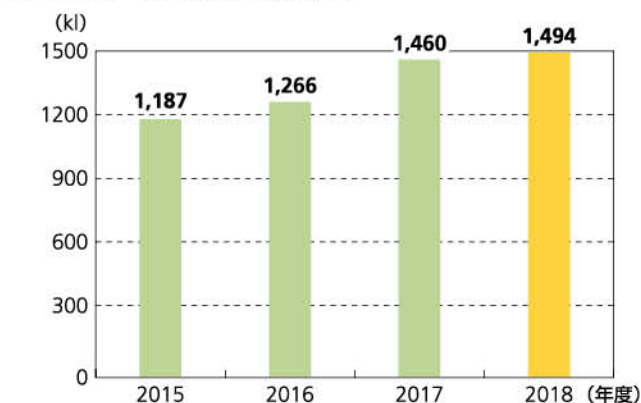
エネルギー投入量

製造時のエネルギー使用量が大きい高濃度液状製品の比率が増えているため、エネルギー投入量は増加傾向にあります。併行してエネルギー使用の合理化をすすめることで、トータルとしての変動は抑えている状況です。

エネルギー内訳



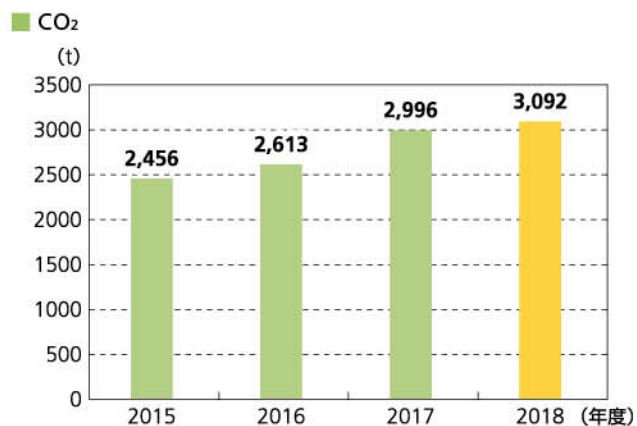
エネルギー投入量推移（原油換算）



CO₂排出量

エネルギー投入量に連動して、CO₂排出量も漸増傾向となっています。

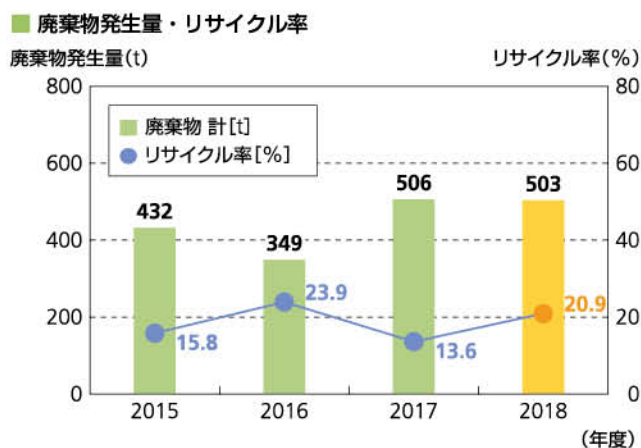
冷却設備の統廃合など生産設備の見直し・改善により効率的にエネルギーを使用することで、CO₂の排出量を抑制しています。



廃棄物発生量・リサイクル率

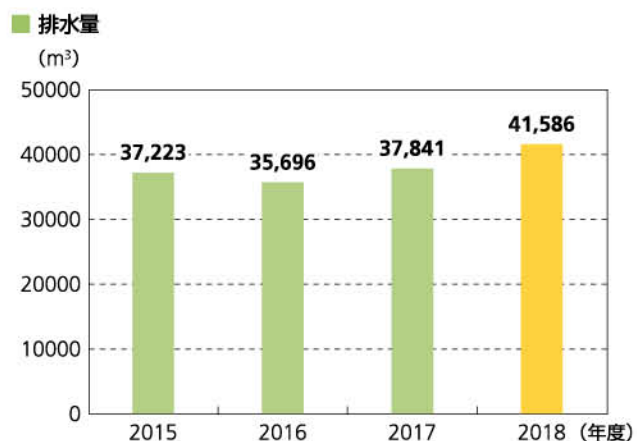
継続的な改善活動によって、基本的には、リサイクル率は増加基調にあります。

しかし、直近の3年間に於いて、工場建屋や大型生産設備の更新／新設工事に伴う廃材発生により、一時的に廃棄物量が大きく増加することが相次いだため、データからは傾向が見てとれなくなっています。



排水量

排水量は、一般的に水資源の投入量の推移と概ね連動しますが、前記のように排水処理設備の調整に水資源を使用するようになったため、2015年度以降は、そういった傾向も明確には見られなくなっています。



環境への責任



2018年度の目標と実績

環境安全活動状況

環境負荷低減に関するテーマでは、生産量増加の影響により排水のSS負荷量において大幅な目標未達となりました。また、生産設備増強の影響からCO₂排出量についても目標未達となりました。この結果を受けて、排水処理の効率向上と安定化を目指し、引続き改善活動に注力しています。

その他のテーマでは概ね目標達成していますが、更なるレベルアップを目指した取組みを全社で続けています。

推進項目	テーマ	2018年度目標	2018年度実績	関連ページ
環境負荷低減	CO ₂ 削減	製造原単位あたり CO ₂ 排出量 2017年度比 1% 以上削減	2017年度比 1.3% 増加	11
		製造原単位あたり エネルギー使用量 (電気・ガス・燃油) 2017年度比 1% 以上削減	2017年度比 0.5% 増加	10
		製造原単位あたり 廃棄物発生量 (リサイクル分を除いた量) 2017年度比 3% 以上削減	2017年度比 10.6% 減少	11
	水生環境への負荷 低減	製造原単位あたり 排水のSS ^{*1} 負荷量 2017年度実績値未満 "	2017年度比 18.4% 増加	—
		製造原単位あたり 排水のCOD ^{*2} 負荷量 2017年度実績値未満	2017年度比 55.3% 減少	—
安全衛生	安全操業の推進	人身体業災害なし 人身無休災害なし	人身体業災害：0件 人身無休災害：2件	13
		安全教育の実施	従業員、委託業者への安全教育を実施	—
		事業所内の安全パトロールの実施	定期的な安全パトロールを実施 (1回/月など)	—
		SS ^{*3} 推進活動の実施	● 製造現場の定期的なSS状態のチェック・指導を実施(1回/月) ● 毎日の朝礼にてSS啓発を実施	—
危機管理	防災体制の整備	防災訓練の実施	● 大地震・火災・津波などを想定した防災訓練を実施 ● 災害時の安否報告訓練を実施	13
社会との共存	社会活動への参加	地域の社会・環境活動への参加	● 地域の環境活動に参加 ● 環境保全標語募集に応募	15
	環境情報の発信	HYMO CSR Reportの発行	発行を実施	5

用語集

^{*1}SS：Suspended Solidの略。浮遊物質。水中に浮遊している物質の量のこと。

^{*2}COD：Chemical Oxygen Demand（化学的酸素要求量）の略。有機汚濁物質による水質の汚れ度合いを示す数値のひとつ。

^{*3}SS：整理・整頓・清掃・清潔・躰の5項目。

社会・地域・従業員への責任

化学メーカーにおける「安全」は、社員にとっても、また地域の皆様にとっても、最優先で取り組むべき課題です。



安全な職場づくりを目指して

労働災害防止への取り組み

安全操業は生産活動の基本です。当社では全国の生産拠点で、労働災害防止の取り組みを進めています。事故・トラブル事例の情報共有や水平展開、安全パトロール等による職場環境の改善、災害防止のための定

期的な訓練等を通して、日々安全操業のレベルアップを図っています。更に2015年度から、BCP^{*1}に基づく取り組みも合わせて行い、安全操業と供給責任の達成の両立を進めています。

災害件数

年度	休業災害	無休災害
2015	2	0
2016	0	1
2017	0	2
2018	0	2



各拠点で定期的に実施

防災・避難訓練 (2018年度)

9月1日の防災の日に合わせて各生産拠点近くで大地震が発生したとの想定で防災避難訓練を実施しました。

毎年実施している地震発生直後の避難訓練や設備確認訓練の他に、青森工場では自治体が発行している津波ハザードマップを利用して避難場所の確認を行いました。

神奈川工場では初期消火を想定した消化器訓練と地震体験車による震災体験を全員参加で行いました。

この震災体験では、東日本大震災や阪神淡路大震災など過去に起こった大地震に加えて、全国各地で今後想定される様々な大地震の揺れ方をリアルに再現する最新型の地震体験車が使用され、現実に関わり得る震災がどのようなものか具体的なイメージを持つことができました。

想像を超える強烈な縦揺れ・横揺れを体験すると、どの参加者も驚くとともに、災害への備えの重要性を強く認識していました。山口工場では地震発生後に火災が発生したとの想定で消火ポンプによる消火訓練を実施しました。

また工場ごとに指定避難場所までの避難経路に不具合がないかを実際に歩行し万が一の事態に備えています。

営業拠点においてはBCP(事業継続計画)の一環として2018年9月と2019年3月に全社一斉の安否確認訓練を実施しました。地震などの災害が発生時した際に、社員や家族の安否や事業所の被災状況を把握するために全従業員がNTT ドコモのBiz安否確認アプリを活用した安否確認の操作を練習しています。



① 青森工場 ② 神奈川工場 ③ 山口工場



防災及び事業継続への取り組み

BCM 格付

当社では2015年に事業継続計画関連規程を制定し、地震等の有事に際し役員・従業員やその家族、来客者等の安全確保を最優先し、継続的な製品・サービスの供給責任の履行ならびに経営資源の保全を実現するための取り組みを実施しております。

2018年には日本政策投資銀行の防災及び

事業継続への取り組みを評価するシステムである「DBJ BCM^{*2}格付」にて「防災及び事業継続への取り組みが十分に行われている」という格付を取得しました。今回の評価のフィードバックを踏まえながらこれからも継続して活動に取り組んでいきます。



社会・地域・従業員への責任

責任ある企業として、地域社会への貢献や従業員満足度の増進に取り組んでいます。



ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

有給休暇の取得状況

2012年度から、有給休暇を取得しやすくするため、入社初年度の取得可能日数を13日間に増やしました。また、勤続年数が浅い従業員が年次有給休暇を取得し易くする見直しや有給休暇の計画的付与の日数を1日増やし、計2日間とすることにも取り組みました。その結果、2018年度の

有給休暇の平均取得日数は12.8日(平均取得率70.3%)となり、2010年度に比較して2.3日増加いたしました。2019年度はすべての従業員が5日以上取得し、かつ平均取得日数が13日を超えるよう努めてまいります。

有給休暇の年間取得日数

年度	取得状況
2015	12.1日
2016	12.0日
2017	11.7日
2018	12.8日



2018年度は7名が取得

育児休業制度、育児短時間勤務制度等

2018年度は、2名の女性社員が、育児休業を利用しました。また、1名の女性社員が、育児のための勤務時間短縮を利用、3名の女性社員と1名の男性社員が、育児のためのフレックス勤務制度を利用して就業し、育児と仕事の両立を図ってお

ります。「子の看護休暇」を活用する場合、2016年度より半日単位での取得を可能とする等、男性社員や複数回利用者にとっても、利用しやすい制度となる様、これからも制度の更なる見直しを図ってまいります。



従業員のキャリア開発

英会話教室開講

2015年5月より、本社にて、外部講師による英会話教室を開講致しました(週1回)。社員の自己啓発支援を目的とし、福利厚生の一環として始めたことから、社員の自己負担は教材費のみとしています。2018年度は本社・湘南研究センターにて開講、多くの社員が受講しています。これからも社員のスキルアップに資する施策を展開してまいります。



従業員の意識向上

地震を想定した消防救急講習

湘南研究センターでは、職場の安全と社員の健康の維持のため、安全衛生委員会を設置し毎月1回開催しています。同委員会は、安全衛生推進者を中心としたグループリーダーと推薦された従業員から構成され、大きな問題や懸念事項問題に対しセンター全体で解決に取り組んでいます。

日常の予防活動に重きをおいた労働安全衛生への取り組みとして、月一回の安全教育やヒヤリハットシートや改善提案を活用し、2018年度迄に755日無事故・無災害を達成しました。また、同委員会では外部講習(救命・救急、交通事故防止)を企画し、安全に対する従業員の意識向上に努めています。

2018年8月17日には寒川町消防本部さまのご協力を頂き、地震を想定した消防救急講習を開催しました。40名の社員が参加し、応急手当、担架搬送、瓦礫撤去などの実技を学びました。当センターでは、毎年、課題を設定した防災訓

練を実施しております。今回の講習を有効に活用し、防災・災害時への対応に役立てています。

2018年11月6日には、神奈川県茅ヶ崎警察署さまのご協力を頂き、交通事故防止について学びました。当センターの多数が自家用車並びに自転車で通勤しており、業務上で社用車を運転する機会もあります。この現状を踏まえ従業員の交通安全についての意識向上を図り、交通事故防止に努めています。





安全への配慮

ポンプ機材の安全研修

当社製品を移送するための顧客用貸与ポンプを安全に利用していただくため、営業を対象にポンプメーカーによる講習およびポンプメンテナンス研修を当社平塚テクノセ

ンターにて実施致しました。安全運用スキルを習得し、顧客満足度の向上を目指します。



環境保全活動

茅ヶ崎地区相模川をきれいにする協議会

神奈川工場では「茅ヶ崎地区相模川をきれいにする協議会」の会員として様々な活動を行っています。

河川視察（パトロールおよび美化活動）

茅ヶ崎市内は一級河川相模川水系の小出川、その支流の千ノ川と駒寄川等が流れています。

河川視察は毎年実施し、会員自ら水質調査と河川敷の清掃を行っています。河川視察では、河川の7項目の水質調査(水量・色・臭気・透視度・pH・水温・DO)を行いましたが、ここ数年はほぼ良好な水質で推移しています。また10月には河岸の清掃を実施し、河川美化を中心に会員への河川の現状報告を行い、啓発活動に努めました。



環境保全標語入選

「茅ヶ崎地区相模川をきれいにする協議会」は、複数の市内事業所からなる団体で、環境保全を推進し、公害防止を図っています。その一環として、1964年より毎年、会員企業から環境保全標語の募集を実施しています。2018年度も多くの応募の中から神奈川工場の作品1点入選を果たしました。

入選作品

残したい 笑顔がうまれる
ゆたかな水辺



美しい明るい町づくりへ

地域の清掃活動

青森工場では、例年、近隣の企業と協力して、公園など地域の清掃活動に継続的に取り組んでいます。工場周辺において、2018年7月にゴミ・不法投棄等の回収を実施、また、2019年5月に道路側溝の浚渫作業を行っています。



安全な環境づくり

優良冷凍保安責任者協会会長表彰を受賞

2018年10月23日、一般社団法人神奈川県高圧ガス保安協会より優良冷凍保安責任者協会会長表彰を受賞しました。

この表彰は、高圧ガス災害の未然防止と公共の安全確保のための自主保安に対して、長年にわたり冷凍設備の維持管理と災害防止に尽力した者を対象に表彰されるもので、無事故無災害への貢献と公共の安全に寄与したことが評価されて表彰されました。





〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番1号
TEL: 03-6212-3838 FAX: 03-6212-3833

社名コンセプト

社名「ハイモ(HYMO)」は、これからの当社の企業姿勢と、事業領域とを示しています。

企業姿勢とは、「高く優れた(High)技術によって、より多く(More)お客様の信頼に応えていくために行動、努力すること」です。

事業領域とは、「Hydro Modern Chemistry(水とニュー化学)」という新しい事業領域です。